

# 『同和対策審議会答申』から 60 年を迎えて

～「答申」の願いを現在に生かす学びと実践を～

問 人権推進課 (☎ 82・2147 / IP ☎ 88・9077)

「じつたいしんとつしん」という言葉を聞いて、どんな漢字が思い浮かびますか。「同和審議会」とすぐに気づく方は、少ないでしょう。

これが1965(昭和40)年に出された「同和対策審議会答申」を意味し、部落問題解決のために大変重要な文書であることまで理解している方は、もっと少ないのではないのでしょうか。さらに、「読んだことがある」「内容も知っている」となると、どうでしょうか？

## 「同和対策審議会答申」って？

1960(昭和35)年の「同和対策審議会設置法」にもとづき、総理府の附属機関として設置された同和対策審議会が、1961(昭和36)年に内閣総理大臣から受けた「同和地区に関する社会的及び経済的諸問題を解決するための基本的方策」についての諮問に対し、1965(昭和40)年8月11日に、ときの内閣総理大臣 佐藤栄作氏に提出された答申です。

わが国の同和対策の原点であり、日本政府が「部落問題の解決を国策として取り組む」ことを確認した、歴史的な価値のある文書です。部落差別の存在を認め、国や行政の責任を明確にしました。本年は、この「答申」から60年の節目を迎えています。

## 「答申」までの経過

○日本国憲法の施行(1947年)  
戦後日本は、民主国家として再出発

○憲法が施行されるも、部落差別の実態は、事実上放置  
国や地方行政の責任を問う大きなうねりへ(部落解放国策樹立全国大行進など)行政が部落の劣悪な生活実態を放置していることが、部落差別を温存助長していると指摘

○国が「同和対策審議会」を発定  
(1960年)  
(内閣より諮問を受ける)

○同和対策審議会答申  
(1965年8月11日)

※奈良県や県内市町村では「答申」が出された11と重ねて、毎月11日は「人権を確かめあう日」の取り組みが進められています。

「答申」では、同和問題は人類普遍の原理である「人間の自由と平等に関する問題」であり、日本国憲法によって保障された基本的人権にかかわる課題であることが示され、その早急な解決は国の責務であり、国民的課題であると明記されています。また、その後の法制定や同和教育の推進に大きな影響を与えています。答申をふまえ、部落差別の撤廃をめざし、1969(昭和44)年7月「同和対策事業特別措置法」が時限立法として制定され、数回にわたる改正と延長の後、2002(平成14)年3月まで、33年間にわたって特別対策が実施されてきました。

差別撤廃と人権確立を求める取り組みのうねりや日本に対する人権水準の高まりを求める国際的なはたらきかけなどにより、2016(平成28)年に人権三法と呼ばれる「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」そして「部落差別解消推進法」が相次いで施行され、差別解消に向けて大きな前進となりました。「答申」は60年も前に書かれた文章ですが、これを振り返るのではなく、現在に生かす学びと実践が求められています。



## 7月 差別をなくす 強調月間です 取り組みにご参加ください

1969(昭和44)年7月に、「同和対策事業特別措置法」が制定・施行されたことと重ねて、奈良県や県内すべての市町村では、毎年7月を「差別をなくす強調月間」と位置づけて、あらゆる差別の解消を願って様々な取り組みを行っています。

人は誰でも人間として尊重され、幸せに暮らしたいと願っています。実際には他者の人権を侵したり、自分の尊厳が傷つけられたりすることが起きます。社会には依然、数多くの人権侵害が存在しています。

この機会に私たち一人ひとりが、人権の様々な課題に向き合い、考えてみるのが大切ではないでしょうか。

## 差別をなくす市民集会

### ゆんたくしましょうね

※ゆんたくとは・・・沖縄の方言で「おしゃべり」

奈良県初公演

7月19日(土)

午後1時～  
(午後0時30分受付)

文化会館

劇作家・樋口ミユや現地ガイドと共に沖縄戦の跡地を巡り、祖母の証言を丹念に聞き取り、谷ノ上自身の人生ドキュメンタリーをもとに脚本を制作。おばあちゃんの命が母親に、そして自分へ受け継がれ、自分が生きていることを実感。おばあちゃんが生き抜いて来た時代を知るため、故郷の沖縄のことを調べ始めるが戦争とともに自分自身をそして人間を知ることにつながっていく。壮絶な戦禍をくぐり抜き未来へと命をつないだ奇跡の物語を独特な世界観の一人芝居として舞台化。



たにのうえ ともみ  
谷ノ上 朋美 (俳優)

一人芝居を通じて「命の尊さ」「平和の大切さ」  
「自分らしく生きること」を全国で伝えている。

入場無料  
予約不要

手話通訳  
あり

要約筆記  
あり

託児希望者は要相談  
※7月11日(金)まで

| 催し・内容                                                                              | 日 時                                 | 場 所                    |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------------------|
| 街頭啓発                                                                               | 7月1日(火)                             | 近鉄室生口大野駅・榛原駅<br>サンクシティ |
| 人権啓発ポスター展                                                                          | 7月1日(火)～31日(木)<br>開庁日を除く ※最終日は12時まで | 宇陀市役所1階ロビー             |
| 部落差別等撤廃と人権確立を目指す県民集会                                                               | 7月30日(水) 午後1時～                      | 檀原文化会館                 |
| 人権・行政・心配ごと特設相談<br>(予約不要・無料・秘密厳守)                                                   | 7月9日(水) 午前9時～正午                     | 室生振興センター               |
| 人権相談 問 人権推進課 (☎ 82・2147)<br>行政相談 問 総務課 (☎ 82・1302)<br>心配ごと相談 問 室生地域事務所 (☎ 92・2001) | 7月15日(火) 午前9時～正午                    | 大宇陀人権交流センター            |

差別をなくす強調月間  
おける取り組み

# 戦後80年を迎えて今思うこと



人権推進課  
小野課長

藤村 睦美さん

本年は、第二次世界大戦終結から80年を迎えます。戦争を知らない世代が社会の大半を占める時代となりました。戦争の記憶を風化させないために、今回は戦争体験をされた宇陀市の顧問弁護士である藤村 睦美さんにお話をお伺いしました。藤村さんは現在88歳。小学生のときに戦争を体験されています。

小野：戦争を体験された当時のことは覚えておられますか？

藤村：国民学校2年生のとき、兵隊さんが出征しますので、国語の時間には、戦地に行った兵士に対する慰問文というのを書きました。2年生の終わり、あるいは3年生のとき、つまり昭和19年の終わりから昭和20年の初め頃になると、学校の先生に招集があり、男の先生は兵隊に行かれるわけですね。それを生徒が日章旗と旭日旗を持って榛原駅へ行き、万歳三唱してお送りしました。戦争も終わり頃になると、出征され、戦死した先生に対して、校長先生が生徒を集めて、国に殉じて立派に戦われたという賛美する訓示をしておられました。

小野：戦前と戦後で教育はガラッと変わりましたか？

藤村：戦争の終わりの方は、あまり学校の教育というものをきちっとできるような状態ではありませんでした。戦後は国が荒廃し新しい教科書がすぐできませんでした。また食糧難でしたから、運動場の半分にサツマイモを植えて代用食としていました。「すいとん」といって、雑炊のような

ところに小麦粉の団子を作って入れるとか、食べることができない野草を採集して炊き込み、量を増やして空腹を満たすというような食事です。ときにお弁当を持ってきた人がいましたが、体育の時間が終わって教室へ戻るとお弁当が空になっていました。欠食児童が多かったものですから、弁当窃盗事件みたいなことは、しょっちゅうありました。

小野：宇陀市での戦争被害を教えてください。

藤村：新町の列車襲撃事件。戦闘機が非常に低空を何度も飛んでいました。近鉄の列車の方へ飛んで行き、射撃しているのを聞きました。その時、大阪方面へ向かう列車が戦闘機に狙われてい



▲新町の高架下の銃跡  
(萩原交差点ガード下より西へ約40m)

えることが一番大切だと思います。

小野：市民の皆さまにお伝えしたいことはありますか？

藤村：感謝しかありません。榛原の地で生まれて、高等学校も榛原で卒業させていただいて力添えをしてくださる方もいて、ふるさとのありがたさ、感謝がありません。

小野：市民として、そのように言っていただけでも嬉しいです。藤村さん、貴重なお話を下さりありがとうございます。詳しいインタビュー内容は、うだチャンネル11の「講演会等」で7月中に放送します。ぜひご覧ください！



るといので、榛原駅の西側にあるトンネルに入って銃撃を避けようとしていたと聞きました。しかし電車の送電線が切れて走行できなくなり、新町の高架の上で停車しました。列車の乗客を狙撃するというので、戦闘機が西峠の方で何度も旋回をし、狙撃を繰り返していたのを見た記憶があります。空襲警報が解除された後、現場へ被害状況を見に行きました。死者や負傷者を近くの酒蔵に収容していて、中に入った瞬間血なまぐさいにおいがし、横たわっている負傷者のうめき声が聞こえてきました。これが皮膚感覚として覚えている戦争体験の一つです。

小野：日本はこの80年間戦争をしませんでしたが、どのように思われますか？

藤村：今も世界では戦争や紛争が起きています。戦争の直接の原因など、学者によっては色々言いますが、人の心の内側にあるもの、こういうものは、いつも戦争というものと向き合ってます。



小野：この平和な世の中をどのようにご覧になりますか？

藤村：日本は今、戦争がないという意味では平和に暮らしていると思いますが、日本だけを考えると、非常に飽食、浪費の時代なので、こんなことをしているのいいのかなと思います。僕はいつもゴミ出しをしますが、プラスチック一つとってもこんな使い方をしているのかと思います。なかなか人間という

小野：若い世代では、周りに戦争経験をされた方が少なく、戦争を歴史の一つのよう感じてしまう部分があります。戦争を知らない世代に向けて、一番伝えたいことを教えてください。

藤村：歴史に学ぶといいますが、世界で起きている戦争や紛争に対して、なぜこんなことが起きるのかということ自分で理解できるように、記事だけではなく具体的によく見るということ。記事を読んだり教えられたりするだけではなくよく見て、能動的に考



▲左からマーガレット、ジェファー、ルエラー、ジェシカ、メアリー、ルイズ